

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	2019年9月19日
【事業年度】	第57期（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	株式会社アクシーズ
【英訳名】	XYZ Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊地知 高正
【本店の所在の場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 榊 茂
【最寄りの連絡場所】	鹿児島県鹿児島市草牟田二丁目1番8号
【電話番号】	099（223）7385（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 榊 茂
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2015年6月	2016年6月	2017年6月	2018年6月	2019年6月
売上高 (百万円)	17,664	18,378	18,802	19,369	19,586
経常利益 (百万円)	1,934	2,388	3,058	3,086	2,560
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,091	1,223	1,960	2,131	1,807
包括利益 (百万円)	1,123	1,167	1,996	2,122	1,791
純資産額 (百万円)	7,747	8,774	10,575	12,444	13,815
総資産額 (百万円)	10,483	11,556	13,777	15,360	16,426
1株当たり純資産額 (円)	1,379.55	1,562.48	1,883.05	2,215.94	2,460.01
1株当たり当期純利益 (円)	194.29	217.80	349.02	379.63	321.81
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.9	75.9	76.8	81.0	84.1
自己資本利益率 (%)	15.1	14.8	20.3	18.5	13.8
株価収益率 (倍)	11.8	8.4	9.7	11.1	7.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,420	2,556	2,581	2,336	2,390
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,031	693	560	783	2,150
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	75	140	196	253	420
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	1,868	3,590	5,414	6,714	6,533
従業員数 (人)	1,125	1,140	1,165	1,180	1,290
(外、平均臨時雇用者数)	(712)	(695)	(656)	(583)	(617)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第55期から金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。

なお、比較を容易にするため第53期及び第54期についても百万円単位に変更しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期
決算年月	2015年 6 月	2016年 6 月	2017年 6 月	2018年 6 月	2019年 6 月
売上高 (百万円)	15,305	15,988	16,434	17,094	17,175
経常利益 (百万円)	1,643	2,019	2,797	2,810	2,295
当期純利益 (百万円)	945	1,021	1,825	2,020	1,700
資本金 (百万円)	452	452	452	452	452
発行済株式総数 (千株)	5,617	5,617	5,617	5,617	5,617
純資産額 (百万円)	5,615	6,454	8,115	9,873	11,137
総資産額 (百万円)	7,703	8,631	10,763	12,169	13,092
1株当たり純資産額 (円)	999.90	1,149.38	1,445.13	1,758.13	1,983.20
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	25.00 (-)	35.00 (-)	45.00 (-)	75.00 (-)	80.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	168.36	181.82	325.07	359.74	302.83
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.9	74.8	75.4	81.1	85.1
自己資本利益率 (%)	18.3	16.9	25.1	22.5	16.2
株価収益率 (倍)	13.6	10.0	10.4	11.7	8.1
配当性向 (%)	14.8	19.2	13.8	20.8	26.4
従業員数 (人)	854	877	897	908	968
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
株主総利回り (%)	293.4	239.2	443.0	555.1	344.5
(比較指標：配当込み TOPIX) (%)	(131.6)	(102.7)	(135.7)	(148.9)	(136.6)
最高株価 (円)	2,530	2,750	3,715	6,240	4,245
最低株価 (円)	780	1,780	1,650	3,015	2,101

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第53期の1株当たり配当額には、Antibiotic-Freeチキン(通称：無薬飼育鶏肉)生産開始20周年記念配当8円を含んでおります。

4. 第54期の1株当たり配当額には、上場15周年記念配当10円を含んでおります。

5. 第57期の1株当たり配当額には、創業70周年記念配当2円50銭を含んでおります。

6. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

7. 第55期から金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。

なお、比較を容易にするため第53期及び第54期についても百万円単位に変更しております。

## 2【沿革】

当社は、創業者である伊地知正勝が、1949年鹿児島市照国町6番22号において闘病生活のなかでの栄養補給の目的も兼ね合わせて、個人で養鶏を開始したことに、その源を発します。

その後、諸外国の文献を参考にしながら独自の技術改良を重ね、単なる養鶏から、食品としての「卵」の組織的生産への移行による一層の発展と従業員の意識向上のため、1962年11月13日、株式会社伊地知種鶏場（資本金3,000千円）を設立いたしました。

わが国の食生活も経済の高度成長とともに向上し、当社が大消費地から遠隔地にある鹿児島を拠点とするという立地条件等による「卵」の競争力発揮の限界、また、「卵」の商品価値の高度化の限界、さらには、当時は特別の機会に食されていた「鶏肉」を日常の食卓へとどけ、一層のわが国の食生活の向上の一助になりたいとの考えから、鶏肉及びその加工食品の製造に専念することといたしました。

株式会社アクシーズ（旧商号：株式会社伊地知種鶏場）設立後の変遷は次のとおりであります。

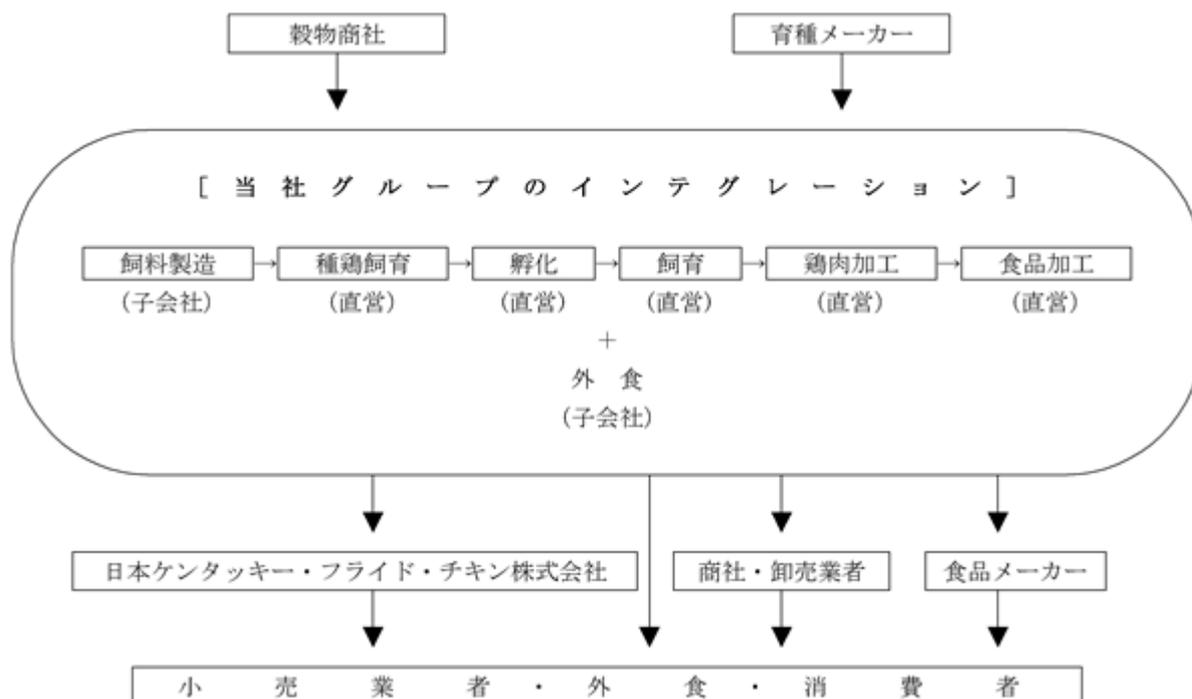
年月	事業内容
1962年11月	採卵鶏の育種改良及びその雛の孵化販売を目的として株式会社伊地知種鶏場（現・株式会社アクシーズ）を設立。
1965年7月	独自に改良した育種による鶏肉加工事業に着手。
1967年2月	傘下の委託農家による肥育施設を展開し、ブロイラーの飼育生産を開始。
1967年4月	鶏肉加工工場として、川上工場（所在地：鹿児島市）を新設し、鶏肉生産を開始。
1968年6月	複数の大型肥育施設を展開するため、有限会社南九州畜産（現・連結子会社）を設立。
1971年2月	孵卵能力強化のため孵卵場（現・宮之浦工場、所在地：鹿児島市）を新設。
1971年11月	採卵鶏肥育施設団地を新設し、食卵の生産販売を開始。
1972年4月	大手総合商社との合併で株式会社アイエムポーター（現・連結子会社）を設立し、ブロイラー生産能力を増強。
1973年3月	需要拡大に応じて製造能力を強化するため鶏肉加工工場として、宮之城工場（所在地：薩摩郡さつま町）を新設。
1973年7月	鶏肉加工食品の開発に着手。 鹿児島特有の特殊土壌「シラス」の工業化研究に着手。
1974年7月	鶏肉の不可食部分の飼料化のため、宮之城レンダリング工場（現・宮之城第2工場、所在地：薩摩郡さつま町）を新設。
1975年3月	鶏肉の販売窓口として、東京営業所（所在地：東京都文京区）を開設。
1975年4月	飼料の指定配合及び飼料原料の直輸入開始。
1976年2月	ブロイラー生産の付帯業務に携わる有限会社城山サービス（現・連結子会社）を設立。
1976年4月	特殊土壌「シラス」を利用した製品の製造会社として、イヂチ化成株式会社（現・株式会社アクシーズケミカル、現・連結子会社）を設立。
1977年7月	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社と販売契約を締結。
1977年11月	川上工場をスーパーマーケット向け鶏肉加工工場からケンタッキー・フライド・チキン向け専用工場に設備を改修。
1979年10月	特殊土壌「シラス」を製品化し製造販売するための、シラス工場（所在地：鹿児島市）、検査のための、ラボラトリー（所在地：鹿児島市）を新設。
1980年2月	宮之城工場内の加工食品部門を食品工場（現・鹿児島工場、所在地：薩摩郡さつま町）として分離新設し、加工食品の製造販売事業に本格参入。
1983年4月	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社とフランチャイズ契約を締結し、第1号店としてケンタッキーフライドチキン下関店（所在地：山口県下関市）を開店。
1984年12月	食卵の生産販売を終了。
1988年7月	川上工場から宮之城工場にケンタッキー・フライド・チキン向け専用工場を変更。
1992年5月	肥育施設団地を展開するため、有限会社求名ファーム（現・連結子会社）を設立。
1993年2月	鶏肉及び加工食品の販売部門を独立させ、イヂチ商事株式会社（現・株式会社アクシーズフーズ、現・連結子会社）を設立。

年月	事業内容
1993年 6月	鹿児島に賦存する良質の「ゼオライト」の製造販売を開始。
1996年 6月	大手飼料メーカーから飼料製造工場を買収し、飼料製造会社、錦江湾飼料株式会社（現・連結子会社）を設立。
1996年 8月	飼料製造工場取得に際し、谷山事業所（現・南栄事業所、所在地：鹿児島市）を新設。
1996年10月	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社とフランチャイズ契約を締結し、第1号店としてピザハット板橋店（所在地：東京都板橋区）を開店。
1998年10月	株式会社ニチレイへABF（Antibiotic-Free）チキンの販売を開始。
1999年 4月	商号を株式会社アクシーズに変更。
2000年12月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
2002年12月	需要拡大に応じて製造能力を強化するため鶏肉加工工場を買収し、薩摩工場（所在地：薩摩郡さつま町）を新設。
2004年 2月	バイオマスエネルギーを製造するため、有限会社南九州バイオマス（現・持分法適用関連会社）を設立。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2006年 5月	南九州バイオマス山崎工場（所在地：薩摩郡さつま町）を新設稼働し、RPS電力とグリーン電力を当社工場群及び九州電力株式会社にそれぞれ供給し、又、グループ内の工場群へプロセス蒸気の供給を開始。
2010年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現・東京証券取引所JASDAQ（スタンダード））に上場。
2013年 7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場。

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社（株式会社アクシーズ）、連結子会社7社及び関連会社1社により構成されており、一般消費者に、日常生活に必要な鶏肉を提供することを主たる業務としております。

この円滑な遂行のため、当社グループでは、安全性が高く、消費者のニーズに適合した鶏肉を安定的、継続的に供給する観点に立ち、飼料製造から種鶏飼育、雛生産、ブロイラー飼育、鶏肉加工、鶏肉加工食品製造及び外食まで、グループ内での一貫した事業運営体制により、鶏肉製造販売、加工食品製造販売、外食の各事業を行うインテグレーションを構築しております。



各事業の内容については、次のとおりであります。

なお、当該事業の区分は、「第5 経理の状況 1.連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

#### (1) 食品

当セグメントにおきましては、当社グループの食品に対する安全、安心にこだわった健康な鶏を飼育するという基本的な考え方から、直営の肥育施設で飼育されたブロイラーによる鶏肉を製造販売しております。

当該事業は、当社グループの全事業のベースとなるものであり、今後も積極的に拡大を図る事業と位置付けております。なお、当該セグメントにおける特徴は次のとおりであります。

##### a. 無投薬飼育の実現

当社グループが独自に開発した鶏舎環境制御技術による鶏舎内環境の自動管理及び当社グループ内において製造している安全性の高い飼料の使用等により、無投薬飼育を実現しております。

##### b. 直営肥育施設による飼育

当社グループは、安全性の観点から直営肥育施設での鶏の飼育を基本としており、委託肥育施設から直営肥育施設への転換を実施しております。現在、全ての肥育施設が直営肥育施設となっております。

c . 加工食品

当社グループで製造された鶏肉を原料として、唐揚げ、レバー煮込み、チキンナゲット等の鶏肉加工食品を製造販売しております。加工食品の品質はその原料の鮮度等に大きく左右されることから、当社グループの加工食品は当社グループで製造した新鮮な鶏肉をその日のうちに、加工し製造販売しております。新鮮でおいしい加工食品を消費者の皆様にお届けしております。

当該事業は、鶏肉製造販売とのシナジー効果が発揮できる事業であることから、今後も積極的に拡大を図る事業と位置付けております。

d . その他

鹿児島に産出する「ゼオライト原石」を原料としたゼオライト製品、「シラス土壌」を原料としたシラスパルーンの製造販売及び外食店舗向けの無化学肥料減農薬野菜の販売を行っております。

e . リサイクルの実施

当社グループは、鶏肉加工過程で発生する骨、羽根、血液等の不可食部位につきましては、当社グループの宮之城第2工場レンダリングプラントで加工し、飼料原料及び肥料原料として再利用しており、環境問題にも配慮しております。また、鶏の飼育段階に産出される鶏糞を有限会社南九州バイオマスの鶏糞ボイラーの燃料として供給しております。

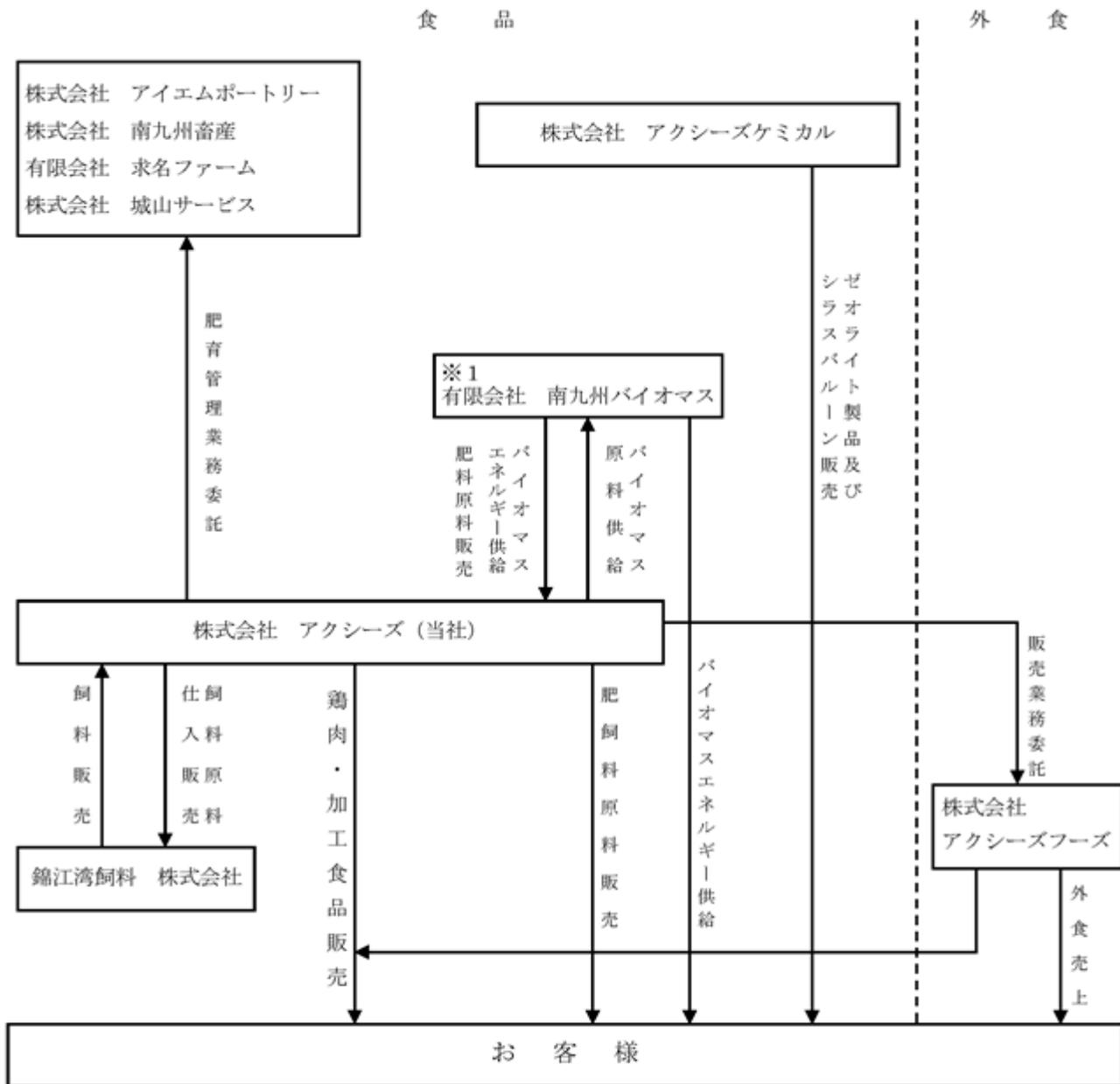
(当社及び主な関係会社) 当社、株式会社アクシーズケミカル及び錦江湾飼料株式会社

(2) 外食

当セグメントにおきましては、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社及び日本ピザハット株式会社のフランチャイズ店舗(ケンタッキーフライドチキン及びピザハット)を経営しております。

(関係会社) 株式会社アクシーズフーズ

なお、当社及び関係会社の各セグメントにおける位置付けは次のとおりであります。



(注) 無印 連結子会社

※1 関連会社で持分法適用会社

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社アクシーズ フーズ (注)2	東京都文京区	30	KFC(ケン タッキーフラ イドチキン) 及びPH(ピザ ハット)店舗 のフランチャ イズ事業	100.0	業務委託契約に基づき、当社 鶏肉及び加工食品を販売して いる。 役員の兼任等……無
株式会社アクシズケ ミカル	鹿児島県鹿児島市	20	シラスパル ーン及びゼオラ イトの製造販 売	100.0	シラス及びゼオライトを製造 販売している。 役員の兼任等……無
錦江湾飼料株式会社 (注)1	鹿児島県鹿児島市	30	飼料の製造	100.0	当社グループの飼料を製造し ている。 役員の兼任等……有
株式会社南九州畜産 (注)1	鹿児島県鹿児島市	56	肥育管理業務 及び肥育施設 の運営	100.0	当社グループの肥育施設を管 理及び土地を所有している。 役員の兼任等……有
有限会社求名ファーム	鹿児島県薩摩郡さ つま町	20	肥育管理業務 及び肥育施設 の運営	100.0	当社グループの肥育施設を管 理及び土地を所有している。 役員の兼任等……有
株式会社アイエムポ ートリー	鹿児島県鹿児島市	20	肥育管理業務 及び肥育施設 の運営	100.0	当社グループの肥育施設を管 理及び土地を所有している。 役員の兼任等……有
株式会社城山サービ ス	鹿児島県鹿児島市	3	肥育管理業務 及び肥育施設 の運営	100.0	業務委託・受託契約に基づき 当社グループの肥育施設を管 理作業している。 役員の兼任等……有
(持分法適用関連会社) 有限会社南九州バイ オマス	鹿児島県鹿児島市	16	鶏糞ボイラー 資源循環シス テムによる鶏 糞の処理	30.3	当社グループの肥育施設の鶏 糞を処理している。 役員の兼任等……有

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 株式会社アクシーズフーズについては、連結売上高に占める同社の売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の割合が100分の10を超えておりますが、当連結会計年度における外食セグメントの売上高に占める同社の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。)の割合が、100分の90を超えているため、同社の主要な損益情報等の記載を省略しております。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2019年6月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
食品	1,214 ( - )
外食	76 ( 617 )
合計	1,290 ( 617 )

(注) 従業員数は、就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、( )書きは外書で臨時従業員の期中平均雇用人員を記載しております。

### (2) 提出会社の状況

2019年6月30日現在

区分	従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
社員	116	37.4	7.4	4,167,021
従業員	852	35.0	4.2	2,664,457

(注) 1. 従業員数は、就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であります。  
2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。  
3. 当社の事業セグメントは、食品事業の単一セグメントであるため、セグメント別の従業員の記載はしていません。

### (3) 労働組合の状況

当社グループには、アクシーズ労働組合が組織(組合員数487人)されております。

なお、組合結成以後、労使関係は円満に推移しており、現在までのところ特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループの経営方針は、次のとおりであります。

我々が日頃口にする、日常生活に必要な食品を取り扱う企業である。

当社グループの製品は、

- － 安心して食べられ、健康に良いものであること。
- － 鮮度が良く、美味しいものであること。
- － お客様に満足いただける価値を持っていること。
- － 低価格で提供できること。
- － 整然とした清潔な工場で作られていること。

以上の経営方針のもと、当社グループは良質な鶏肉の安価かつ継続安定的な供給を通して社会へ貢献していくために、グループ内での一貫した事業運営体制により、科学的実験及び研究による技術の追求、飼育環境コントロールの開発及びその実施、当社独自の設備への投資等、事業運営基盤を更に強化し、家内工業的な畜産業から近代産業としての食品業への進化を目指しております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、高い収益性を維持し企業価値を向上させていくため、原価率の低減やコスト管理に努めることに注力しております。そのため、自己資本当期純利益率（ROE）と売上高経常利益率（ROS）等を経営指標として採用し、経営の健全性維持とコスト削減意識をもって企業経営に取り組んでおります。

なお、当連結会計年度末現在のROEは13.8%、ROSは13.1%となっております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

今後の当社グループ（当社及び連結子会社）の中長期的な経営戦略は、製造、販売量の安定的拡大、人材の確保及び育成が挙げられます。

当社グループの業界シェア向上のためには、種鶏・肥育施設、孵卵場、加工工場等の新設又は拡充は欠かせない要件であり、このためにも現有施設の見直しに加え新規設備の取得が課題と考えております。なお、この拡大は当社グループの特色である事業の一貫体制を維持していくという観点から、飼料工場を中心としたエリアでの展開と考えております。

上記の規模拡大を遂行するなかで、当社グループといたしましては、人材の確保及び育成が不可欠といえます。そこで、今後も中途、新卒者ともに新規募集を強化する予定であり、また、採用後における教育体制の充実を図ることが必要であると考えております。

#### (4) 会社の対処すべき課題

日本経済は、雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかに改善するものと期待されますが、本年10月には消費税率の引き上げが予定されており、消費者の節約志向の高まりなどから先行きに懸念が残る状況にあります。また、鶏肉業界におきましては、食肉・穀物相場の変動や世界規模での需給動向の変化が激しく、厳しい経営環境が続くことを予測しております。

こうした状況下におきまして、当社グループは販売活動の強化を図るとともに、食品事業及び外食事業において生産性の向上を目指してまいります。

また、消費者に対する安全・安心への信頼を保证すべく、更なる品質管理体制の発展に注力いたします。

食の安心安全が問い質される昨今、決して変えてはならない基本に忠実な事業の運営を行う一方、常に変化する顧客のニーズに対応すべく、良い品質を低価格で提供できるようスピードを持った改善を進めることが、当社グループの対処すべき課題であります。そのためにも前記「(3) 中長期的な会社の経営戦略」を遂行することが重要であると考えております。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況・経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、下記における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

### (1) 種鶏の調達について

種鶏は、海外の育種会社で改良された複数種を採用しており、大手総合商社系販売会社等を通じ調達をおこなっております。当社は、複数鶏種を調達し、種鶏自体の能力の不具合等に備えたりリスク回避策を講じておりますが、種鶏の確保が困難となる等不測の事態が生じた場合は、鶏肉の製造に重大な影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 市況変動の影響について

#### 飼料原料及び鶏肉の市況変動

当社グループは、鶏肉を主力製品として製造、販売しております。鶏肉は、特にもも肉を中心に市況変動が大きく、また、クリスマス向け商品や鍋物等冬場の需要増加による価格上昇に見られる固有の季節要因が存在しております。また、当社が輸入する飼料原料市況と鶏肉市況の間には、これまで一定の連動性は認められるものの、タイムラグを伴っており、これらの動向によっては当社の業績にも影響を及ぼす可能性があります。

#### 為替変動

当社の飼料原料輸入取引にかかる決済方法については、為替変動リスクが存在しております。決済期間は比較的短期間であることから、これまで決済条件が大幅に悪化した事例はありませんが、予期せぬ大幅な為替変動による不測の事態が生じた際には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 主要な販売先について

当社グループの総販売実績に対し、内部売上を除く主な販売先は「3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 生産、受注及び販売の実績 c. 販売実績」に記載のとおりであります。特にフードリンク株式会社と株式会社ニチレイフレッシュに対する販売が全体の売上高の約50%を占めていることから、両社の経営戦略が当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 競合について

#### 輸入品等との競合

輸入鶏肉に代表される冷凍鶏肉と当社の冷蔵鶏肉を比較すると、冷凍することによりその細胞膜が破壊され、解凍する際にドリップとして肉汁が逃げ出しやすいため、肉質が硬くなり旨みがなくなると同時に鮮度も悪くなりますが、鮮度の良い冷蔵鶏肉は、細胞膜内に肉汁を保ち、柔らかさや旨みを保つことができる特徴があります。

当社の冷蔵鶏肉は、製造工程及び輸送中の品温管理の徹底により、当社製品の品質面の優位性はあると判断されますが、景気動向に伴い、品質面にこだわらず、価格面からのみ鶏肉を購入する価格重視の消費動向によっては、当社製品の販売動向に影響を受ける可能性があります。

#### 国産品との競合

国内において多くの鶏肉生産業者が存在しております。当社は卸売業者や小売業者と連携強化を図ることに加え、広告宣伝等も含めた営業力を強化し、抗生物質・抗菌製剤を投与せずに飼育したプロイラー（特別飼育鶏）による当社製品の販売拡大に努めておりますが、品質面及び価格面における競争上の優位性が確保されない場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、他の食品メーカーとの競合に関しましては、当社が鶏肉生産メーカーである利点（食品加工工場を鶏肉加工工場に隣接させ当日処理した新鮮な鶏肉の原材料を使用したチルド商品製品等）を生かし商品開発をおこなっておりますが、それによって価格面での差別化が図れるとは限りません。

(5) 食品の安全性の確保及び関係法令について

当社は、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律に基づく「食鳥処理業」として、鶏肉及びその関連製品の製造、販売をおこなっております。食鳥処理業は食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律をはじめとして、衛生上、食品衛生法等各種法令により規制を受けております。また、当社連結子会社である株式会社アクシーズフーズは食品衛生法に基づく「飲食業」として飲食店の経営をおこなっております。

主な関係法令は次のとおりであります。

関係法令名	許認可等交付者	当社グループの該当業務	法令の概要
食品衛生法	都道府県知事	鶏肉、鶏肉加工食品製造 外食店舗営業	飲食に起因する衛生上の危害の発生防止及び公衆衛生の向上、増進をはかる見地から食品の規格、添加物、衛生管理、営業許可等が定められております。
食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律	都道府県知事	食鳥加工	食鳥処理の事業について、衛生上の見地から必要な規制をおこなうとともに、食鳥検査の制度を設けることにより、食鶏肉等に起因する衛生上の危害の発生を防止し、公衆衛生の向上及び増進をはかる見地から、営業許可、衛生管理の基準、食鳥の検査等が定められております。
薬事法	都道府県知事	薬品の販売	医薬品、医薬部外品等の品質、有効性及び安全性の確保のために必要な規制をおこなうとともに、医療上特にその必要性が高い、医薬品及び医療用具の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、保健衛生の向上をはかる見地から、営業の許可制度等が定められております。
毒物及び劇物取締法	都道府県知事	毒物及び劇物の販売	毒物及び劇物について、保健衛生上の必要な取締をおこなう見地から、営業の登録制度等が定められております。
関税定率法	税関長	飼料原料の輸入	関税の税率、関税を課する場合における課税標準及び関税の減免その他関税制度について定められております。
農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律 (JAS法)	-	鶏肉、鶏肉加工食品の販売	生鮮食品の品質に関し、販売業者は名称、原産地、内容量の表示が定められております。 加工食品の品質に関し、製造業者は名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法、製造者等の氏名又は名称及び住所の表示が定められております。

アレルギー表示は食品衛生法  
ポジティブリストは食品衛生法

また、当社の社内の検査体制は、「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に定める食鳥処理衛生管理者により、食鳥加工時に、疾病及び放血、脱毛、中抜き工程（内臓等の摘出）における不良品の摘出をおこなっております。さらに、同法に基づき、日々搬入される生鳥に対し、県又は政令指定都市の検査機関から肥育施設毎に生鳥検査及び内臓・鶏肉等の検査を受けておりますが、当社においても自主的に社内検査を実施しております。

食品産業にとって製造過程における安全の確保は社会的責務と認識しております。当社は、飼育過程においては、抗生物質や合成抗菌剤を与えないため、肥育施設や鶏肉加工工場の安全管理を徹底してまいりました。

さらに流通過程においても品温管理等安全管理を徹底しておりますが、万が一、鳥インフルエンザ等の疫病又は食中毒等不測の事態が生じた際には、企業の信用や業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により緩やかな景気回復が見られるものの、通商問題や国際情勢の緊迫化等、景気の下振れリスクが多数存在し、先行き不透明な状況が続いております。

鶏肉業界におきましては、国内における鶏肉の生産が増加したこと等により、需給バランスが緩み、鶏肉相場の低迷が続いております。また、主要製造コストである飼料原料価格をはじめとする原燃料価格や人件費の高騰が続いており、厳しい経営環境が続いてまいりました。

このような状況の中、当社グループの業績は、売上高195億86百万円（前期比1.1%増）となりました。利益面につきましては、営業利益24億31百万円（同18.7%減）、経常利益25億60百万円（同17.0%減）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、18億7百万円（同15.2%減）となりました。

\*当連結会計年度より、一部費用（主に物流業務にかかる費用）の計上科目の見直しを行いました。その結果、総額約6億円の販売費及び一般管理費を売上原価に組み替えております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### a．食品

食品事業におきましては、引き続き出荷数量の増加及び効率化に努めました。しかしながら、国内鶏肉相場低迷の影響が大きく、さらに肥育及び鶏肉加工両部門において生産工程の歩留りが低下したこと等により、売上高は165億90百万円(前期比1.7%減)、セグメント利益は19億59百万円（同29.4%減）となりました。

#### b．外食

外食事業におきましては、KFC店舗におけるキャンペーンが継続的に好調でありました。一部店舗の閉鎖がありましたが、既存店舗の売上の増加により、採算が大幅に改善いたしました。今後につきましては、既存店舗の継続・定期的なリニューアル及び新規出店への設備投資を強化し、引き続きセールスの向上に努めてまいります。売上高は26億29百万円(同5.5%増)、セグメント利益は2億75百万円(同30.1%増)となりました。

なお、全体としての財政状態については、「(2)経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容 財政状態の分析」をご参照ください。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動により資金が23億90百万円増加したものの、投資活動及び財務活動により資金がそれぞれ21億50百万円及び4億20百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ1億81百万円（2.7%減）減少し、当連結会計年度末には65億33百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金収支は、23億90百万円の資金増加（前期は23億36百万円の資金増加）となりました。これは、主に税金等調整前当期純利益が25億76百万円、減価償却費が7億80百万円あったこと等によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金収支は、21億50百万円の資金減少（前期は7億83百万円の資金減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が17億68百万円あったこと等によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金収支は、4億20百万円の資金減少（前期は2億53百万円の資金減少）となりました。これは、配当金の支払額が4億20百万円あったこと等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
食品	12,254	8.5

- (注) 1. 金額は製造原価によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当社グループは、製品の性質上そのほとんどについて需要予測に基づく見込生産を行っております。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
食品	16,590	1.7
外食	2,629	5.5
その他	366	-
合計	19,586	1.1

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 前連結会計年度及び当連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)		当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)	
	金額（百万円）	割合（％）	金額（百万円）	割合（％）
フードリンク株式会社	4,982	25.7	4,639	23.7
株式会社ニチレイフレッシュ	4,689	24.2	4,067	20.8

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債の報告数値、報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りは、主に未払費用、賞与引当金及び法人税等であり、継続して評価を行っております。

なお、見積り及び判断・評価につきましては、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づいて行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

財政状態の分析

(資産)

当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ10億65百万円増加し、164億26百万円となりました。これは、主に機械装置及び運搬具が10億47百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ3億4百万円減少し、26億11百万円となりました。これは、主に未払金が1億94百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ13億70百万円増加し、138億15百万円となりました。これは、利益剰余金が利益計上により13億86百万円増加したこと等によるものであります。

資本の財源及び資金の流動性

当連結会計年度の流動性の保持に必要な運転資金及び資本的支出は、営業活動によるキャッシュ・フローにより賄いました。

キャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」をご参照ください。

次期の重要な資本的支出につきましては、「食品」セグメントにおいて、肥育施設の新設及び加工工場の増強等4億40百万円が発生する予定であります。

なお、その所要資金につきましては、自己資金を充当する予定であります。

経営成績の分析

(売上高及び営業利益)

当連結会計年度における売上高は195億86百万円(前期比1.1%増)となりました。また、売上原価は133億83百万円(前期比10.6%増)となり、売上原価率は前連結会計年度と比べ5.9ポイント悪化し68.3%となりました。この結果、営業利益は24億31百万円(前期比18.7%減)となりました。

売上高及び営業利益の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」をご参照ください。

(経常利益)

当連結会計年度における経常利益は25億60百万円(前期比17.0%減)となりました。

(特別損益)

当連結会計年度における特別利益28百万円は、受取保険金であります。また、特別損失12百万円は、主に固定資産圧縮損6百万円及び固定資産除却損6百万円であります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

税金等調整前当期純利益は25億76百万円(前期比14.6%減)となり、法人税、住民税及び事業税や法人税等調整額を差し引きした結果、当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は18億7百万円(前期比15.2%減)となりました。

#### 4【経営上の重要な契約等】

##### (1) フランチャイズ契約

当社の連結子会社である株式会社アクシズフーズは、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社と以下の内容のフランチャイズ契約を締結しております。

契約項目	契約の内容	契約期間
カーネルサンダース・ケンタッキー・フライド・チキンその他の食品に係る各商標、サービスマーク、著作権及び特許	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社が、左記商標等を使用することを許諾し、契約時に株式会社アクシズフーズがライセンス料を支払い、以降、売上高の一定割合を使用料と広告企画として会費として支払うことを目的としたフランチャイズ契約。	OFA(Outlet Franchise Agreement)契約からIFA(International Franchise Agreement)契約に更新。 契約期間は更新期日から5年間。

##### (2) サブフランチャイズ契約

当社の連結子会社である株式会社アクシズフーズは、日本ピザハット株式会社と以下の内容のサブフランチャイズ契約を締結しております。

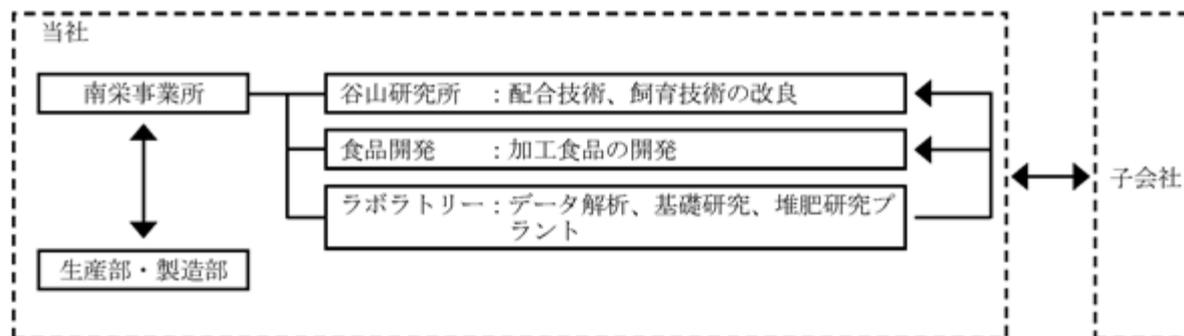
契約項目	契約の内容	契約期間
サービスマークを含む商標である「PIZZA HUT」、各種商標、サービスマーク、トレードネーム、標語、デザイン等	日本ピザハット株式会社が、左記商標等を使用することを許諾し、契約時に株式会社アクシズフーズがイニシャル・フィーを支払い、以降、売上高の一定割合を店舗指導料、広告等の費用として支払うことを目的としたサブフランチャイズ契約。	IFA(International Franchise Agreement)規定に準じた契約を締結。 許諾期間は10年。

## 5【研究開発活動】

当社グループは、飼育技術の改良、新しい飼料原料の利用、製品品質の向上、新製品の開発等積極的な研究活動を行っております。

現在、研究開発は、以下のとおり、当社の谷山研究所、食品開発、ラボラトリー及び当社各工場、子会社の技術陣により推進されております。

当連結会計年度におけるグループ全体の研究開発費は102百万円であります。



### 食品

谷山研究所は、フロア・ペン方式の鶏飼育試験舎を有し、飼育試験を行い、飼育方法、飼料成分、環境条件、使用原料等の違いが、鶏の飼育に及ぼす影響等を研究し、当社生産部門や飼料設計、製造方法へのフィードバックを行っております。

以前は、このような試験を実施できる施設が少ないこともあり、他社の試験の要望も多く、受託したケースもありましたが、現在は当社グループ内の試験のみを行っております。

食品開発は、消費者ニーズに即した新製品の開発及び既存製品の品質向上並びに製造技術の改善等の研究を行っております。

ラボラトリーは、飼育試験、鶏肉、加工食品、肥飼料及び土壌の成分分析等により、各研究スタッフの試験計画の基礎試験を行い、併せて研究結果の検証を行っております。

さらに、各部門の技術陣は、当社グループ独自の環境制御機器、加工機械の設計、試作の開発及び鶏糞等の高度化利用技術の開発を行っております。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、グループの成長、拡大を目指すための技術力及び低コスト化を追求することを基本として、当連結会計年度は1,668百万円の設備投資を実施いたしました。

食品事業においては、主に増産に向けた肥育施設の改修、製造工程における生産効率向上のために468百万円の投資を実施いたしました。

その他事業においては、再生可能エネルギー設備の取得のために1,148百万円の投資を実施いたしました。

所要資金につきましては、自己資金によっております。

なお、当連結会計年度における重要な設備の除却又は売却はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2019年6月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
川上工場他 (鹿児島県鹿児島市他)	食品	鶏肉加工設備	127	0	80 ( 61,791)	816	1,024	805 [ - ]
宮之浦工場他 (鹿児島県鹿児島市他)	同上	種鶏・孵卵設備	30	-	468 (237,233)	42	540	80 [ - ]
肥育施設 (鹿児島県薩摩郡他)	同上	肥育設備	438	0	823 (535,708)	414	1,677	45 [ - ]
南栄事業所他 (鹿児島県鹿児島市他)	同上	飼料製造設備 ラボラトリー 研究設備他	2	0	556 ( 14,876)	62	620	24 [ - ]
再生可能エネルギー施設 (鹿児島県鹿児島市他)	その他	再生可能エネルギー設備	7	984	- ( - )	1	993	- [ - ]

##### (2) 国内子会社

2019年6月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
株式会社 アクシーズフーズ	ケンタッキー フライドチキン 及びピザハット (山口県山口市他)	外食	店舗設備	43	0	- ( - )	35	79	76 [617]
錦江湾飼料 株式会社	飼料工場 (鹿児島県鹿児島市)	食品	飼料製造 設備	0	40	- ( - )	0	40	12 [ - ]
株式会社 アイムポート リー他	肥育施設 (鹿児島県鹿児島市 他)	同上	肥育設備	10	-	214 (453,193)	-	224	3 [ - ]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含まれておりません。なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 従業員数の[ ]書きは外書で、臨時従業員の期中平均雇用人員を記載しております。

4. 上記の他、主要な賃借設備として、以下のものがあります。

(1) 提出会社

該当ありません。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	店舗の面積(m <sup>2</sup> )	賃借料(百万円)
株式会社アクシースフーズ	ケンタッキーフライドチキン及びピザハット (山口県山口市他)	外食	店舗・店舗設備	11,502	年間賃借料 221

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、今後1年間の生産計画、需要予測、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、提出会社を中心に調整を図っております。

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設及び改修の計画は、次のとおりであります。なお、重要な設備の除却、売却等の計画はありません。

(1) 新設

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
株式会社アクシース 肥育施設	鹿児島県内	食品	肥育施設改築	40	-	自己資金	2019年10月	2020年6月
株式会社アクシース 肥育施設	鹿児島県内	食品	肥育施設新設	250	12	自己資金	2019年10月	2020年6月
株式会社アクシース 加工工場	鹿児島県内	食品	加工工場増強	150	-	自己資金	2019年10月	2020年2月

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 改修

会社名 事業所名	所在地	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月	
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
株式会社アクシース 肥育施設	鹿児島県内	食品	肥育施設改修	20	-	自己資金	2019年7月	2020年6月

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,350,000
計	19,350,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年9月19日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,617,500	5,617,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 (100株)
計	5,617,500	5,617,500	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2000年12月12日 (注)	780,000	5,617,500	139	452	213	428

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格(募集価格) 480円

1株当たり引受価額 453円

1株当たり発行価額 357円

1株当たり資本組入額 179円

なお、当該募集は、いわゆるスプレッド方式を採用しているため、1株当たりの発行価額のうち179円を資本金に、1株当たりの引受価額453円と当該金額との差額274円を資本準備金に組入れております。

(5) 【所有者別状況】

2019年6月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	10	16	57	21	1	2,060	2,165	-
所有株式数(単元)	-	6,506	171	17,378	311	1	31,794	56,161	1,400
所有株式数の割合(%)	-	11.58	0.30	30.94	0.55	0.00	56.63	100	-

(注) 自己株1,649株は、「個人その他」に16単元、「単元未満株式の状況」に49株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
有限会社照国興産	鹿児島県鹿児島市照国町6番22号	600	10.68
伊地知 高正	鹿児島県鹿児島市	502	8.95
伊地知 芳正	鹿児島県鹿児島市	502	8.95
日本ハム株式会社	大阪府大阪市北区梅田2丁目4-9	500	8.90
株式会社鹿児島銀行	鹿児島県鹿児島市金生町6-6	280	4.99
伊地知 恭正	東京都文京区	250	4.46
伊地知 昭正	鹿児島県鹿児島市	250	4.46
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1丁目13番2号	210	3.74
村尾 万紀子	大阪府豊中市	185	3.29
伊地知 洋正	東京都文京区	185	3.29
計	-	3,466	61.72

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,614,500	56,145	-
単元未満株式	普通株式 1,400	-	1単元(100株)未満 の株式
発行済株式総数	5,617,500	-	-
総株主の議決権	-	56,145	-

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社アクシーズ	鹿児島市草牟田 二丁目1番8号	1,600	-	1,600	0.03
計	-	1,600	-	1,600	0.03

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	41	0
当期間における取得自己株式	-	-

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	1,649	-	1,649	-

### 3【配当政策】

当社は、安定的な経営基盤の確保に努めるための積極的な設備投資と会社の競争力の維持強化を行うとともに、株主に対する利益還元を経営の最重要政策として位置付けており、業績に裏付けされた成果の配分を行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

上記方針に基づき、2019年6月期の期末配当につきましては、普通配当を前期比2円50銭増配し、1株当たり77円50銭の普通配当に加え、創業70周年記念といたしまして2円50銭を記念配当とし、1株当たり80円の配当を実施することを決定いたしました。この結果、当期は配当性向26.4%、自己資本利益率16.2%となりました。

内部留保資金につきましては、今後予想される業界他社との競争激化に対処し、今まで以上に生産基盤の強化を行うための生産設備への投資やお客様からのより一層の信頼を得るための環境保全並びに製品品質向上への投資を行いたいと考えております。

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
2019年9月18日 定時株主総会決議	449	80.00

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、持続的な企業価値向上のため、効率的かつ透明性の高い経営に取り組んでおります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

#### a. 企業統治の体制の概要

2017年9月12日開催の定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行を内容とする定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しております。

これにより、変化の激しい経営環境に対応するため、取締役会と監査等委員会により業務執行の監査及び監視を行い、経営会議（原則として毎月開催）においてグループ経営全般の重要事項を迅速に決定し、効率的かつ透明性の高い経営に努めております。

#### 取締役会

取締役会は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名と監査等委員である取締役3名（うち社外取締役2名）で構成されており、会社法等で定められた事項及び経営に関する重要事項について決議・報告を行っております。なお、取締役の氏名については、「(2) 役員 の 状況」に記載しております。

取締役会の議長は、代表取締役社長が務めております。

#### 監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である取締役3名（うち社外取締役2名）で構成されております。監査等委員である取締役は、社内の重要な会議に出席し、適宜意見を述べるほか、重要な稟議書類等を閲覧する等の監査手続を実施しております。また、会計監査人や内部統制部門と連携を取りながら、監査の実効性の確保を図っております。なお、監査等委員である取締役の氏名については、「(2) 役員 の 状況」に記載しております。

監査等委員会の議長は、常勤監査等委員が務めております。

#### 経営会議

経営会議は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名と常勤監査等委員1名及び部・所長で構成され、経営上重要な業務執行事項や諸課題を審議し、社長及び取締役会を補佐しております。また、その他、各部門長を交えた分科会も毎月開催しており、社長と部門長の意思の疎通と指示の浸透を図っております。

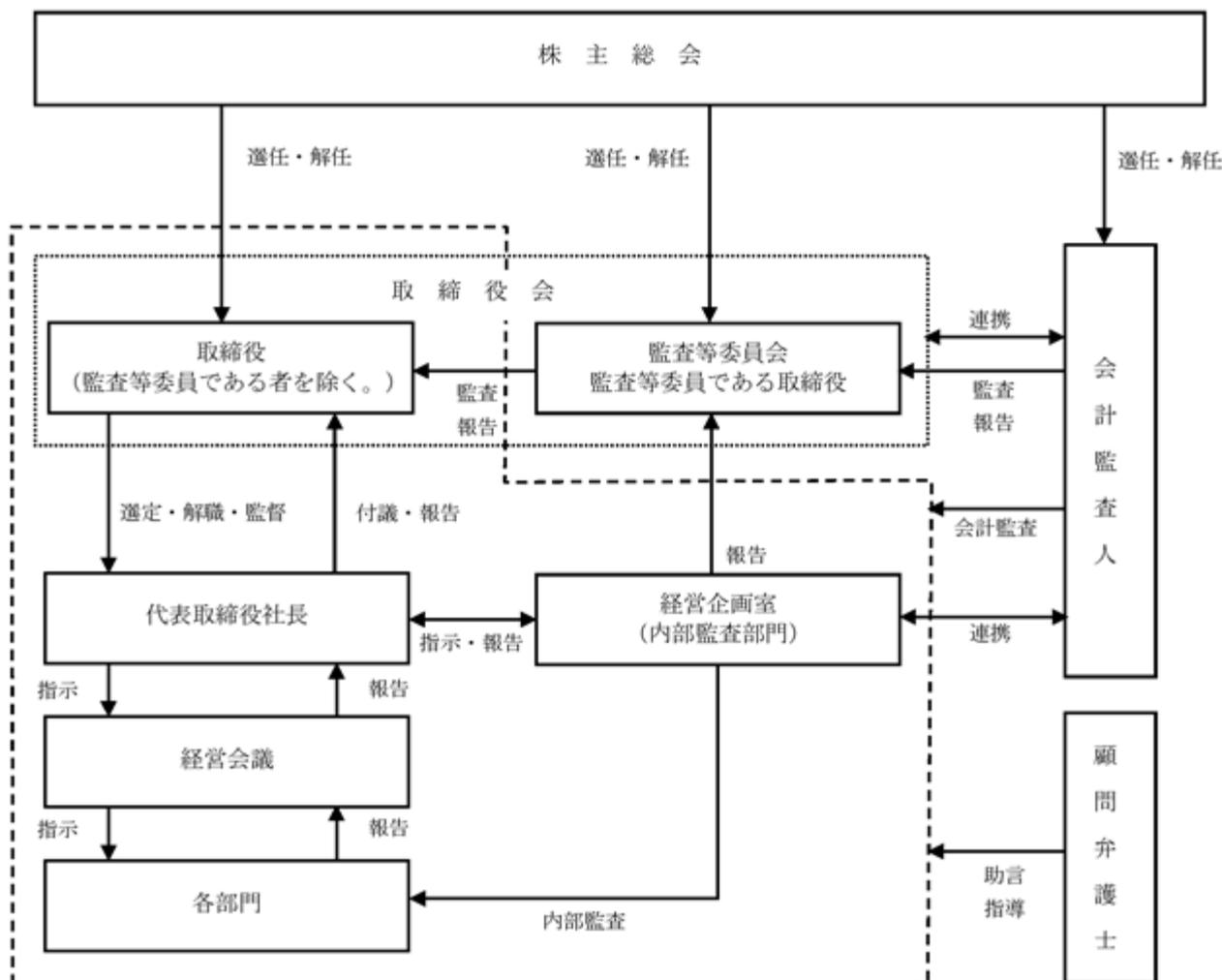
経営会議の議長は、代表取締役社長が務めております。

#### b. 企業統治の体制を採用する理由

当社の企業規模及び事業領域等を勘案し、現在の取締役の構成が業務執行において効率的であり、経営環境の変化や重要な意思決定にも迅速に対応することができるものと判断しております。

また、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）の上場会社として社会的使命と責任を果たし、継続的な成長・発展を目指すため、取締役会の監査・監督機能と経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図りつつ、業務執行の意思決定の迅速化を実現できるものと判断し、2017年9月12日開催の第55回定時株主総会の決議により、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

(2019年9月19日現在)



c. 内部統制システムの整備の状況

内部統制システムにつきましては、「内部統制基本方針」に基づき、各種社内規程の整備を図り、監査等委員である取締役と連携しつつ内部監査等の充実に努めております。

会計監査は有限責任監査法人トーマツに依頼しており、定期的な監査のほか、会計上の課題についても随時確認を行い、適正な会計処理に努めております。その他、税務関連業務に関しましても税理士事務所と契約を締結し必要に応じたアドバイスを受けております。

d. リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、重要な法的課題及びコンプライアンスに係る事項については経営企画室を中心として必要な検討を加えるとともに、顧問弁護士に法的な側面から助言を受ける体制をとっております。

また、企業を取り巻く危険やリスクに適切に対応するため、情報が迅速かつ的確に伝わる仕組みを構築しております。

e. 子会社の業務の適正を確保するための体制の整備の状況

子会社の業務の適正を確保するための体制につきましては、関係会社管理規程に基づき、関係会社の指導、育成を促進しております。また、重要事項の決定等については、事前に当社と協議するなど、業務の適正化に努めております。

#### 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の定数は8名以内、監査等委員である取締役の定員数は3名以内とする旨を定款に定めております。

#### 取締役選任の決議要件

取締役選任の決議要件については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

#### 取締役会にて決議することができる株主総会決議事項

##### a．自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、機動的な資本政策の遂行を目的として、取締役会の決議によって市場取引により自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。

##### b．取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

##### c．中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、機動的な配当政策の遂行を目的として、取締役会の決議によって中間配当を行うことが出来る旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

株主総会の特別決議要件は、会社法第309条第2項の規定に基づき、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性5名 女性 - 名 (役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	伊地知 高正	1975年3月3日生	2005年2月 当社入社 2006年8月 錦江湾飼料(株)代表取締役社長(現) 2007年7月 管理部長 2007年9月 取締役 2009年9月 専務取締役 2017年9月 代表取締役社長(現)	(注)3	502
常務取締役	榊 茂	1953年9月29日生	1977年4月 当社入社 2001年9月 取締役 2003年7月 生産部長 2008年8月 (株)アイエムポーター代表取締役社長 (現) 2017年9月 常務取締役(現)	(注)3	19
取締役 (監査等委員)	松山 照	1948年4月20日生	2003年7月 当社入社 2005年7月 社長室次長 2009年9月 当社監査役(常勤) 2018年9月 取締役(監査等委員)(現)	(注)4	4
取締役 (監査等委員)	山之内 浩明	1961年12月6日生	1990年12月 税理士登録 山之内素明税理士事務所 (現:税理士法人れいめい)入所 1997年7月 (有)山之内コンピューター会計代表 取締役(現) 1999年8月 当社監査役 2012年6月 山之内浩明税理士事務所 (現:税理士法人れいめい)所長 2017年7月 税理士法人れいめい代表社員(現) 2017年9月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注)4	-
取締役 (監査等委員)	新倉 哲朗	1968年4月14日生	1998年4月 弁護士登録 和田・石走・養毛法律事務所 (現:弁護士法人和田久法律事務所) 入所(現) 2007年4月 鹿児島県弁護士会副会長 2010年4月 鹿児島県弁護士会における法律相談セン ター運営委員会及び裁判員裁判に対応で きる弁護士養成委員会委員長 2010年9月 当社監査役 2017年9月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注)4	-
計					526

(注)1. 山之内浩明及び新倉哲朗は、社外取締役であります。

2. 当社は監査等委員会設置会社であります。監査等委員会の体制は次のとおりであります。

委員長 松山 照 委員 山之内 浩明 委員 新倉 哲朗

3. 2019年9月18日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

4. 2019年9月18日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名であり、山之内浩明氏、新倉哲朗氏2名とも監査等委員である取締役であります。

社外取締役を選任するための独立性に関する明文化された基準又は方針等については定めておりませんが、選任にあたっては、東京証券取引所の独立性に関する判断基準を参考にしており、社外の独立した立場からの監視により、取締役の意思決定の妥当性及び適正性を確保するために社外取締役を選任しております。また、一般株主と利益相反を生じるおそれがなく、客観的立場で経営全般に対する牽制機能を果たすことのできる人材を選任しております。

山之内浩明氏は、税理士の資格を有していることから、財務等専門分野に関する相当程度の知見を有していることにより選任しております。また、当社の顧問税理士であり、税務顧問料を支払っておりますが、人的関係、その他利害関係はありません。

新倉哲朗氏は、弁護士として企業法務に精通しており、会社経営を統括する十分な見識を有していることにより選任しております。なお、同氏は一般株主と利益相反が生じるおそれがないと判断し、東京証券取引所「JASDAQ(スタンダード)」の定めに基づく「独立役員」として、同取引所に対して届出を行っております。また、当社との間に人的関係、その他利害関係はありません。

#### 社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

監査等委員である取締役(社外取締役2名)は、監査等委員会において監査等委員である取締役相互の情報共有を図るほか、必要に応じて経営企画室監査部門及び会計監査人との情報交換を行うなど、相互に連携を取り合いながら監査業務を進めております。なお、内部統制部門からは、内部統制の運用状況についての報告を監査等委員会で受け、意見交換を行うことにより連携を図っております。

### (3)【監査の状況】

#### 監査等委員会監査の状況

監査等委員会は、監査等委員である取締役3名(うち社外取締役2名)で構成されております。監査等委員である取締役は、社内の重要な会議に出席し、適宜意見を述べるほか、重要な稟議書類等を閲覧する等の監査手続を実施しております。また、監査等委員である取締役3名中2名は、社外取締役であり、客観的な立場から監督を行うことにより、監督機能の強化に努めてまいります。なお、社外取締役山之内浩明は税理士の資格を有していることから、財務等専門分野に関する相当程度の知見を有するものであり、会計監査人や内部統制部門と連携を取りながら、監査の実効性の確保を図っております。

また、財務報告に係る内部統制監査を担当部門と協議、連携の上実施するほか、監査等委員である取締役及び会計監査人とは、必要に応じて意見交換や情報交換を行うなどの連携をとり、監査の有効性や効率性の向上に努めております。そのため、企業を取り巻く危険やリスクに適切に対応するため、情報が迅速かつ的確に伝わる仕組みを構築しております。

#### 内部監査の状況

当社は、経営企画室監査部門3名を設置し、内部監査規程に基づき、法令順守、内部統制の有効性と効率性、財務内容の適正開示、リスクマネジメントの検証等について、各部門の監査を定期的実施し、改善等の指導する体制をとっております。

なお、経営企画室監査部門と会計監査人は、会計監査人が内部統制の有効性を評価するにあたって、内部統制の実施状況の理解に資するために協議を行い、また、監査の効率的運用のために監査の結果について相互に報告を行っております。

#### 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

##### b. 業務を執行した公認会計士

西元 浩文

瀨村 正治

##### c. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 3名

公認会計士試験合格者等 2名

その他 2名

##### d. 監査法人の選定方針と理由

監査等委員会は、会計監査人として必要とされる専門性、独立性、品質管理体制等を総合的に勘案した結果、有限責任監査法人トーマツを会計監査人として選定しております。

会計監査人の解任又は不再任の決定方針につきましては、監査等委員会が会計監査人の職務の執行に支障がある等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査等委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

##### e. 監査等委員及び監査等委員会による監査法人の評価

監査等委員会は、公益社団法人日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」をもとに監査法人の評価を実施しております。定期的な意見交換や監査実施状況の報告等を通じて、監査法人の専門性、独立性、品質管理体制、職務執行状況等について監査等委員会の協議に基づき評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	20	0	20	-
連結子会社	-	-	-	-
計	20	0	20	-

監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

当社は、監査公認会計士等に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務(非監査業務)である株式の売出しに係るコンフォート・レター作成業務を委託し、対価を支払っております。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

b. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、日数等を勘案して決定しております。

d. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に合意した理由

当社監査等委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、取締役、社内関係部署及び会計監査人からの必要な資料の入手や報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び監査等委員である取締役の報酬については、株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、経営内容、経済情勢、社員給与とのバランス等を考慮して、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬については、取締役会の決議により決定し、監査等委員である取締役の報酬については、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

また、役員持株会を設け、役員の自社株式購入を奨励しております。これらの施策によって、企業業績への役員の責任を明確化するとともに、業績向上への貢献を促進しております。

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬は、2017年9月12日開催の第55回定時株主総会で決議された120百万円（年額）を限度額としております。

監査等委員である取締役の報酬は、2017年9月12日開催の第55回定時株主総会で決議された30百万円（年額）を限度額としております。

なお、当事業年度の当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬等については、2018年9月21日開催の取締役会にて決定しており、監査等委員である取締役の報酬については、2018年9月21日開催の監査等委員会にて決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (監査等委員を除く。) (社外取締役を除く。)	35	33	-	2	2
取締役 (監査等委員) (社外取締役を除く。)	2	2	-	0	2
社外取締役 (監査等委員)	0	0	-	-	1
計	38	35	-	2	5

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式を純投資目的である株式とし、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先企業との取引の安定維持や関係強化を図ることを目的に、当社の持続的な成長及び企業価値向上を目的として、当該取引先等の株式を取得し保有しております。保有の合理性については、株式保有に伴う便宜、減損リスク、株式の価格変動リスク等を踏まえ、毎年取締役会において個別銘柄ごとに検証し、取引の安定や関係強化等に必要であると判断する株式については保有し、保有意義が希薄化してきたと判断する株式については縮減を進めてまいります。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	12	183

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	6	13	株式累積投資による増加、取引先持株会の抛出による取得及び取引関係強化に伴う新規取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社九州フィナンシャルグループ	142,088	137,680	子会社の㈱鹿児島銀行は、当社の主要取引金融機関であり、取引関係の維持、強化を図るため保有。 株式累積投資による増加。	無
	60	73		
三菱商事株式会社	10,604	10,400	取引関係の維持、強化を図るため保有。 株式累積投資による増加。	無
	30	32		
株式会社ジェーシー・コムサ	75,000	75,000	取引関係の維持、強化を図るため保有。	無
	27	28		
日本KFCホールディングス株式会社	13,200	13,200	取引関係の維持、強化を図るため保有。	有
	26	26		
株式会社ニチレイ	4,909	3,469	取引関係の維持、強化を図るため保有。 株式累積投資による増加。	無
	12	9		
ヤマエ久野株式会社	8,663	7,641	取引関係の維持、強化を図るため保有。 取引先持株会の抛出による取得。	無
	11	10		
日本ハム株式会社	1,237	128	取引関係の維持、強化を図るため保有。 株式累積投資による増加	有
	5	0		
株式会社南日本銀行	2,796	2,796	取引関係の維持、強化を図るため保有。	有
	3	4		
株式会社日清製粉グループ本社	874	874	取引関係の維持、強化を図るため保有。	無
	2	2		
株式会社M i s u m i	1,100	1,100	取引関係の維持、強化を図るため保有。	有
	2	2		
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	448	448	取引関係の維持、強化を図るため保有。	無
	1	2		
丸紅株式会社	829	-	取引関係の維持、強化を図るため、当事業年度に新規取得。 株式累積投資による増加。	有
	0	-		

(注) 1. 「-」は、当該銘柄を保有していないことを示しております。

- 株式会社九州フィナンシャルグループは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である株式会社鹿児島銀行は当社株式を保有しております。
- 株式会社ニチレイは当社株式を保有しておりませんが、同社子会社である株式会社ニチレイフレッシュは当社株式を保有しております。
- 日本KFCホールディングス株式会社の株式については、当社連結子会社である株式会社アクシズフーズも57,360株保有しております。
- 当社は、特定投資株式における定量的な保有効果の記載が困難であるため、保有の合理性を検証した方法を記載しております。当社は、毎年取締役会にて、保有の意義を検証しており、2019年6月30日を基準とした検証の結果、いずれも保有方針に沿った目的で保有していることを確認しております。

保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの  
該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの  
該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年7月1日から2019年6月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年7月1日から2019年6月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、監査法人との緊密な連携及び情報の共有化を図るとともに、会計税務の専門書等の出版物の購読や各種セミナーへ積極的に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,724	6,543
受取手形及び売掛金	1,760	1,883
製品	390	290
仕掛品	208	230
原材料及び貯蔵品	660	654
その他	334	303
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	10,077	9,905
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	1,346,661	1,346,672
機械装置及び運搬具（純額）	167	1,114
工具、器具及び備品（純額）	1,41,597	1,41,422
土地	32,344	32,343
建設仮勘定	11	21
有形固定資産合計	4,682	5,575
<b>無形固定資産</b>		
	17	8
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2336	2336
長期貸付金	38	139
繰延税金資産	41	34
その他	167	426
貸倒引当金	0	1
投資その他の資産合計	582	936
固定資産合計	5,283	6,520
資産合計	15,360	16,426

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	365	424
1年内償還予定の社債	-	35
未払金	1,349	1,155
未払法人税等	445	363
役員賞与引当金	11	-
その他	179	171
流動負債合計	2,351	2,150
固定負債		
社債	35	-
繰延税金負債	195	125
役員退職慰労引当金	114	115
退職給付に係る負債	167	173
その他	51	46
固定負債合計	565	461
負債合計	2,916	2,611
純資産の部		
株主資本		
資本金	452	452
資本剰余金	428	428
利益剰余金	11,493	12,880
自己株式	1	1
株主資本合計	12,373	13,759
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	55
その他の包括利益累計額合計	71	55
純資産合計	12,444	13,815
負債純資産合計	15,360	16,426

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
売上高	19,369	19,586
売上原価	12,101	13,383
売上総利益	7,267	6,203
販売費及び一般管理費	1, 2 4,276	1, 2 3,771
営業利益	2,991	2,431
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	7	7
持分法による投資利益	9	4
受取家賃	30	37
為替差益	1	5
受取保険金	35	62
その他	20	12
営業外収益合計	107	131
営業外費用		
支払利息	0	0
減損損失	10	1
その他	0	0
営業外費用合計	11	2
経常利益	3,086	2,560
特別利益		
補助金収入	54	-
受取保険金	-	28
特別利益合計	54	28
特別損失		
固定資産圧縮損	54	6
固定資産除却損	41	6
減損損失	3 29	3 0
特別損失合計	125	12
税金等調整前当期純利益	3,015	2,576
法人税、住民税及び事業税	959	827
法人税等調整額	75	57
法人税等合計	883	769
当期純利益	2,131	1,807
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	2,131	1,807

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
当期純利益	2,131	1,807
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	15
その他の包括利益合計	9	15
包括利益	2,122	1,791
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,122	1,791
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	452	428	9,614	1	10,494
当期変動額					
剰余金の配当			252		252
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,131		2,131
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,879	0	1,878
当期末残高	452	428	11,493	1	12,373

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	80	80	10,575
当期変動額			
剰余金の配当			252
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,131
自己株式の取得			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	9	9	9
当期変動額合計	9	9	1,869
当期末残高	71	71	12,444

当連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	452	428	11,493	1	12,373
当期変動額					
剰余金の配当			421		421
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,807		1,807
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,386	0	1,385
当期末残高	452	428	12,880	1	13,759

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	71	71	12,444
当期変動額			
剰余金の配当			421
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,807
自己株式の取得			0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	15	15	15
当期変動額合計	15	15	1,370
当期末残高	55	55	13,815

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	3,015	2,576
減価償却費	550	780
減損損失	39	1
貸倒引当金の増減額（は減少）	0	0
役員賞与引当金の増減額（は減少）	10	11
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	17	1
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	2	5
受取利息及び受取配当金	9	9
その他の営業外損益（は益）	86	110
支払利息	0	0
持分法による投資損益（は益）	9	4
固定資産除売却損益（は益）	41	6
補助金収入	54	-
固定資産圧縮損	54	6
その他の特別損益（は益）	-	28
売上債権の増減額（は増加）	81	123
たな卸資産の増減額（は増加）	67	82
仕入債務の増減額（は減少）	153	59
未払金の増減額（は減少）	128	101
その他	74	12
小計	3,417	3,147
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	0	0
賃貸料の受取額	30	37
補助金の受取額	54	-
法人税等の支払額	1,230	903
その他	55	101
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,336	2,390
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	10	10
定期預金の払戻による収入	10	10
有形固定資産の取得による支出	808	1,768
無形固定資産の取得による支出	33	-
投資有価証券の取得による支出	10	17
貸付けによる支出	88	217
貸付金の回収による収入	159	116
その他の支出	-	280
その他	1	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	783	2,150
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	252	420
財務活動によるキャッシュ・フロー	253	420
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,299	181
現金及び現金同等物の期首残高	5,414	6,714
現金及び現金同等物の期末残高	6,714	6,533

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 7社

(2) 連結子会社の名称

(株)アクシーズフーズ  
(株)アクシーズケミカル  
錦江湾飼料(株)  
(株)南九州畜産  
(有)求名ファーム  
(株)アイエムポーター  
(株)城山サービス

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社の数 1社

(2) 関連会社の名称

(有)南九州バイオマス

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度は、連結会計年度と同一であります。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

製品・仕掛品・原材料

主として売価還元法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産

定率法(但し、1998年4月1日以後に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～47年

機械装置及び運搬具 2～16年

工具、器具及び備品 2～10年

ロ 無形固定資産

ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき計上しております。

ハ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、原則として連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間にわたって均等償却を行うこととしております。

なお、金額的重要性の乏しい場合には、発生年度の損益として処理することとしております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

本会計基準等は、収益認識に関する包括的な会計基準であり、その基本となる原則は、約束した財又はサービスの顧客への移転を当該財又はサービスと交換に企業が権利を得ると見込む対価の額で描写するように、収益を認識することであります。

基本となる原則に従って収益を認識するために、次の5つのステップを適用します。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 運用予定日

2022年6月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」16百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」41百万円に含めて表示しており、「流動負債」の「繰延税金負債」35百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」195百万円に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
減価償却累計額	6,844百万円	7,496百万円

2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
投資有価証券(株式)	33百万円	38百万円

3 担保に供している資産及び担保に係る債務

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
建物及び構築物	15百万円( - 百万円)	12百万円( - 百万円)
土地	1,750 ( 557 )	1,749 ( 556 )
計	1,766 ( 557 )	1,762 ( 556 )

(注) ( )書きは内書で工場財団抵当に供している資産を示しております。なお、上記資産には、銀行取引に関わる根抵当権及び抵当権が設定されておりますが、担保付債務はありません。

4 有形固定資産の圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している国庫補助金、保険差益等による圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
建物及び構築物	45百万円	49百万円
(うち当連結会計年度の圧縮記帳額)	( - )	( 4 )
工具、器具及び備品	228	230
(うち当連結会計年度の圧縮記帳額)	(54)	( 1 )
計	274	280

## (連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
荷造運搬費	1,161百万円	1,176百万円
従業員給与手当	710	454
雑給	525	383
役員賞与引当金繰入額	11	-
役員退職慰労引当金繰入額	7	6
退職給付費用	15	31
賃借料	481	479

## 2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
	115百万円	102百万円

## 3 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

用途	種類	場所	金額
食品	機械装置及び運搬具	鹿児島県鹿児島市	29百万円
外食	工具、器具及び備品等	兵庫県三木市	0百万円

当社グループは、報告セグメントを基準として、食品、外食及び遊休資産にグループ化し、減損損失の認識を行っております。

食品につきましては、将来の使用見込がなくなった機械装置の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、減損損失の測定における回収可能価額は正味売却価額によっておりますが、売却や他の転用が困難な資産であるためゼロとして評価し、該当する資産の帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

外食につきましては、収益性の観点から閉鎖の意思決定を行った外食店舗において、帳簿価額の全額を減損損失として特別損失に計上しております。

当連結会計年度(自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)

用途	種類	場所	金額
外食	工具、器具及び備品等	兵庫県神戸市	0百万円

当社グループは、報告セグメントを基準として、食品、外食及び遊休資産にグループ化し、減損損失の認識を行っております。

外食につきましては、収益性の観点から閉鎖の意思決定を行った外食店舗において、帳簿価額の全額を減損損失として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	13百万円	21百万円
組替調整額	-	-
税効果調整前	13	21
税効果額	4	6
その他有価証券評価差額金	9	15
その他の包括利益合計	9	15

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,617,500	-	-	5,617,500

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,533	75	-	1,608

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加75株は、単元未満株式の買取りによる増加75株であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2017年9月12日 定時株主総会	普通株式	252	45.00	2017年6月30日	2017年9月13日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2018年9月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	421	75.00	2018年6月30日	2018年9月25日

当連結会計年度(自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,617,500	-	-	5,617,500

2. 自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,608	41	-	1,649

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加41株は、単元未満株式の買取りによる増加41株であります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2018年9月21日 定時株主総会	普通株式	421	75.00	2018年6月30日	2018年9月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2019年9月18日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	449	80.00	2019年6月30日	2019年9月19日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
現金及び預金勘定	6,724百万円	6,543百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	10	10
現金及び現金同等物	6,714	6,533

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役に報告されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3か月以内の支払期日であります。また、その一部には原材料等の輸入に伴う外貨建のものが有替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約を利用して為替の変動リスクをヘッジしております。

社債は、主に運転資金と設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、すべて固定金利の調達であり金利の変動リスクに晒されておられません。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

## 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、営業部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の規程に準じて、同様の管理を行っております。

## 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建の営業債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的到时価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握して保有状況を継続的に見直しております。連結子会社についても、当社の規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限等を定めた管理規程に従い、担当部署が決裁者の承認を得て行っております。

## 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（2018年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	6,724	6,724	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,760	1,760	-
(3) 投資有価証券	302	302	-
(4) 長期貸付金	38	38	0
資産計	8,825	8,825	0
(1) 買掛金	365	365	-
(2) 1年内償還予定の社債	-	-	-
(3) 未払金	1,349	1,349	-
(4) 未払法人税等	445	445	-
(5) 社債	35	35	0
負債計	2,195	2,195	0
デリバティブ取引( )	2	2	-

( ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度（2019年6月30日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	6,543	6,543	-
(2) 受取手形及び売掛金	1,883	1,883	-
(3) 投資有価証券	298	298	-
(4) 長期貸付金	139	140	1
資産計	8,864	8,865	1
(1) 買掛金	424	424	-
(2) 1年内償還予定の社債	35	35	-
(3) 未払金	1,155	1,155	-
(4) 未払法人税等	363	363	-
負債計	1,979	1,979	-
デリバティブ取引( )	3	3	-

( ) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 長期貸付金

長期貸付金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 1年内償還予定の社債、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5) 社債

社債の時価の算定は、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
非上場株式	33	38

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2018年6月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,724	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,760	-	-	-
長期貸付金	38	-	-	-
合計	8,523	-	-	-

当連結会計年度(2019年6月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,543	-	-	-
受取手形及び売掛金	1,883	-	-	-
長期貸付金	116	23	-	-
合計	8,542	23	-	-

4. 社債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2018年6月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
社債	-	35	-	-	-	-
合計	-	35	-	-	-	-

当連結会計年度(2019年6月30日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
1年内償還予定の社債	35	-	-	-	-	-
合計	35	-	-	-	-	-

(有価証券関係)  
その他有価証券

前連結会計年度(2018年6月30日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	297	192	105
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式	4	6	1
合計	302	198	103

当連結会計年度(2019年6月30日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式	294	210	84
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式	3	6	2
合計	298	216	82

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(2018年6月30日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	39	-	39	0
	通貨オプション取引 売建 コール 米ドル	258	-	258	0
	買建 プット 米ドル	258	-	261	2
	合計	557	-	559	2

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 通貨オプション取引は、ゼロコストオプション取引であり、オプション料の授受はありません。

当連結会計年度(2019年6月30日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 買建 米ドル	138	-	137	0
	ユーロ	2	-	2	0
	通貨オプション取引 売建 コール 米ドル	356	-	351	5
	買建 プット 米ドル	356	-	357	1
合計	853	-	849	3	

(注) 1. 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 通貨オプション取引は、ゼロコストオプション取引であり、オプション料の授受はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。  
なお、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	165百万円	167百万円
退職給付費用	24	37
退職給付の支払額	22	31
退職給付に係る負債の期末残高	167	173

(2) 退職給付債務と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
非積立型制度の退職給付債務	167百万円	173百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167	173
退職給付に係る負債	167	173
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	167	173

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	前連結会計年度	24百万円	当連結会計年度	37百万円
----------------	---------	-------	---------	-------

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2018年 6 月30日 )	当連結会計年度 ( 2019年 6 月30日 )
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	52百万円	53百万円
役員退職慰労引当金	37	38
減損損失	173	170
投資有価証券評価損	1	1
未払事業税	31	24
資産除去債務	17	16
棚卸資産の未実現利益	9	7
その他	20	25
繰延税金資産小計	343	337
評価性引当額	204	204
繰延税金資産合計	139	133
繰延税金負債		
特別償却準備金	255	192
その他有価証券評価差額金	32	26
資産除去債務に対応する除去費用	6	5
その他	0	0
繰延税金負債合計	294	224
繰延税金負債の純額	154	90

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度 ( 2018年 6 月30日 )	当連結会計年度 ( 2019年 6 月30日 )
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、業種別のセグメントから構成されており、「食品」及び「外食」の2つを報告セグメントとしております。

「食品」は主に鶏肉(チルド及びフローズン)や鶏肉に加熱、味付け等を施した加工食品の製造及び販売を行っております。「外食」はケンタッキーフライドチキン及びピザハット店舗のFC事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	食品	外食	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,875	2,493	19,369	-	19,369
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	-	0	0	-
計	16,875	2,493	19,369	0	19,369
セグメント利益	2,776	211	2,988	3	2,991
セグメント資産	13,656	1,705	15,362	1	15,360
その他の項目					
減価償却費	532	16	548	-	548
のれんの償却費	-	1	1	-	1
減損損失	39	0	39	-	39
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	892	34	927	-	927

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。

当連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	食品	外食	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,590	2,629	19,220	366	19,586	-	19,586
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	-	0	-	0	0	-
計	16,590	2,629	19,220	366	19,586	0	19,586
セグメント利益	1,959	275	2,235	193	2,428	3	2,431
セグメント資産	13,362	1,788	15,151	1,275	16,427	1	16,426
その他の項目							
減価償却費	599	19	618	159	778	-	778
のれんの償却費	-	1	1	-	1	-	1
減損損失	1	0	1	-	1	-	1
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	468	51	519	1,148	1,668	-	1,668

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、再生可能エネルギー事業を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 3 百万円は、セグメント間取引消去であります。

(2) セグメント資産の調整額 1 百万円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年7月1日 至 2018年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
フードリンク株式会社	4,982	食品
株式会社ニチレイフレッシュ	4,689	食品

当連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
フードリンク株式会社	4,639	食品
株式会社ニチレイフレッシュ	4,067	食品

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年7月1日 至 2018年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	食品	外食	計		
当期償却額	-	1	1	-	1
当期末残高	-	13	13	-	13

当連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額	連結 財務諸表 計上額
	食品	外食	計				
当期償却額	-	1	1	-	1	-	1
当期末残高	-	7	7	-	7	-	7

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自2017年7月1日 至2018年6月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自2018年7月1日 至2019年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
主要株主	(有)照国興産	鹿児島県 鹿児島市	39	保険代理業	(被所有) 直接 10.68	各種保険契約の取次	再生可能エネルギー設備の取得	1,412	建物及び構築物	7
									機械装置及び運搬具	984
									工具、器具及び備品	0
									その他（投資その他の資産）	276

(注) 1. 取引金額には消費税等を含めておりません。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

(有)照国興産からの再生可能エネルギー設備の取得については、市場の実勢価格を勘案して価格を決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度（自 2017年7月1日 至 2018年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
関連会社	(有)南九州バイオマス	鹿児島県 鹿児島市	16	鶏糞ボイラー資源循環システムにより鶏糞の処理	(所有) 直接 30.3	鶏糞処理の委託	資金の貸付	88	長期貸付金	38
							貸付金の返済	159		
							利息の受取	0		

当連結会計年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
関連会社	(有)南九州バイオマス	鹿児島県 鹿児島市	16	鶏糞ボイラー資源循環システムにより鶏糞の処理	(所有) 直接 30.3	鶏糞処理の委託	資金の貸付	217	長期貸付金	139
							貸付金の返済	116		
							利息の受取	1		

(注) 資金の貸付については、市場金利を勘案し合理的に利率を決定しております。

( 1株当たり情報 )

項目	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり純資産額	2,215円94銭	2,460円01銭
1株当たり当期純利益	379円63銭	321円81銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当連結会計年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,131	1,807
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	2,131	1,807
期中平均株式数(株)	5,615,929	5,615,864

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
株式会社アクシースケミカル	第4回私募社債	2015年3月23日	35	35	1.48	なし	2020年3月23日
合計	-	-	35	35	-	-	-

(注) 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
35	-	-	-	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当該連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	4,950	9,868	14,781	19,586
税金等調整前四半期(当期)純利益(百万円)	728	1,319	1,999	2,576
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)	507	931	1,401	1,807
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	90.35	165.84	249.56	321.81

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	90.35	75.49	83.72	72.25

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,474	4,433
売掛金	1,739	1,845
製品	399	294
仕掛品	215	237
原材料及び貯蔵品	423	335
前渡金	183	162
前払費用	57	48
その他	34	14
<b>流動資産合計</b>	<b>7,526</b>	<b>7,371</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,2509	1,2483
構築物	123	131
機械及び装置	0	984
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	2,1540	2,1375
土地	1,2067	1,2066
建設仮勘定	11	21
<b>有形固定資産合計</b>	<b>4,252</b>	<b>5,062</b>
無形固定資産	0	0
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	192	183
関係会社株式	192	192
出資金	0	0
その他	4	281
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>389</b>	<b>657</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>4,642</b>	<b>5,720</b>
<b>資産合計</b>	<b>12,169</b>	<b>13,092</b>

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	292	346
未払金	1,018	866
未払法人税等	371	282
未払消費税等	91	24
預り金	82	87
役員賞与引当金	11	-
その他	63	42
流動負債合計	1,930	1,648
固定負債		
繰延税金負債	196	126
退職給付引当金	133	147
役員退職慰労引当金	34	32
固定負債合計	365	306
負債合計	2,295	1,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	452	452
資本剰余金		
資本準備金	428	428
資本剰余金合計	428	428
利益剰余金		
利益準備金	41	41
その他利益剰余金		
特別償却準備金	572	431
別途積立金	2,250	2,250
繰越利益剰余金	6,068	7,489
利益剰余金合計	8,932	10,212
自己株式	1	1
株主資本合計	9,811	11,091
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	61	46
評価・換算差額等合計	61	46
純資産合計	9,873	11,137
負債純資産合計	12,169	13,092

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当事業年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
売上高	1 17,094	1 17,175
売上原価	1 12,509	1 13,174
売上総利益	4,584	4,000
販売費及び一般管理費	1, 2 1,981	1, 2 2,012
営業利益	2,603	1,988
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 132	1 195
受取家賃	24	26
為替差益	1	5
その他	1 59	1 81
営業外収益合計	216	308
営業外費用		
支払利息	0	0
減損損失	8	1
その他	0	0
営業外費用合計	9	1
経常利益	2,810	2,295
特別利益		
補助金収入	54	-
受取保険金	-	28
特別利益合計	54	28
特別損失		
固定資産除却損	23	-
固定資産圧縮損	54	6
特別損失合計	78	6
税引前当期純利益	2,786	2,317
法人税、住民税及び事業税	826	680
法人税等調整額	60	63
法人税等合計	766	616
当期純利益	2,020	1,700

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年7月1日 至 2018年6月30日）

（単位：百万円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	452	428	428	41	714	2,250	4,158	7,165
当期変動額								
特別償却準備金の取崩					142		142	-
剰余金の配当							252	252
当期純利益							2,020	2,020
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	142	-	1,909	1,767
当期末残高	452	428	428	41	572	2,250	6,068	8,932

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1	8,044	71	71	8,115
当期変動額					
特別償却準備金の取崩		-			-
剰余金の配当		252			252
当期純利益		2,020			2,020
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			9	9	9
当期変動額合計	0	1,767	9	9	1,757
当期末残高	1	9,811	61	61	9,873

当事業年度（自 2018年7月1日 至 2019年6月30日）

（単位：百万円）

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	その他利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計		特別償却 準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	452	428	428	41	572	2,250	6,068	8,932
当期変動額								
特別償却準備金の取崩					141		141	-
剰余金の配当							421	421
当期純利益							1,700	1,700
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	141	-	1,421	1,279
当期末残高	452	428	428	41	431	2,250	7,489	10,212

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1	9,811	61	61	9,873
当期変動額					
特別償却準備金の取崩		-			-
剰余金の配当		421			421
当期純利益		1,700			1,700
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			15	15	15
当期変動額合計	0	1,279	15	15	1,263
当期末残高	1	11,091	46	46	11,137

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

(2) デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ...時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品・仕掛品・原材料

売価還元法による原価法。但し、原材料のうち飼料については先入先出法による原価法（いずれも貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法（但し、1998年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～47年

構築物 2～35年

機械及び装置 4～16年

工具、器具及び備品 2～10年

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、原則として期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 役員賞与引当金

役員賞与支給に備えるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、退職給付債務及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見込額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」の「繰延税金負債」36百万円は、「固定負債」の「繰延税金資産」196百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 担保に供している資産及び担保に係る債務

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
建物	15百万円 ( - 百万円)	12百万円 ( - 百万円)
土地	1,750 ( 557 )	1,749 ( 556 )
計	1,766 ( 557 )	1,762 ( 556 )

(注) ( ) 書きは内書で工場財団抵当に供している資産を示しております。なお、上記資産には、銀行取引に関わる根抵当権及び抵当権が設定されておりますが、担保に係る債務はありません。

2 有形固定資産の圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している国庫補助金、保険差益等の受入れによる圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
建物	45百万円	49百万円
(うち当事業年度の圧縮記帳額)	( - )	( 4 )
工具、器具及び備品	228	229
(うち当事業年度の圧縮記帳額)	(54)	( 1 )
計	273	279

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当事業年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
営業取引による取引高		
売上高	281百万円	278百万円
仕入高	5,499	5,838
その他	401	436
営業取引以外の取引による取引高	138	202

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	当事業年度 (自 2018年7月1日 至 2019年6月30日)
販売手数料	180百万円	189百万円
荷造運搬費	1,155	1,170
役員賞与引当金繰入額	11	-
役員退職慰労引当金繰入額	3	2
退職給付費用	6	14
減価償却費	13	10
おおよその割合		
販売費	68%	68%
一般管理費	32%	32%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式187百万円、関連会社株式5百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式187百万円、関連会社株式5百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	40百万円	44百万円
役員退職慰労引当金	10	9
減損損失	145	145
投資有価証券評価損	1	1
未払事業税	24	17
その他	18	24
繰延税金資産小計	241	243
評価性引当額	159	159
繰延税金資産合計	82	84
繰延税金負債		
特別償却準備金	251	189
その他有価証券評価差額金	27	21
繰延税金負債合計	278	210
繰延税金負債の純額	196	126

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年6月30日)	当事業年度 (2019年6月30日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.4	2.5
評価性引当額の増減	0.1	0.0
法人税額の特別控除額	1.5	0.4
法人税等還付税額	-	0.7
その他	0.2	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.5	26.6

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	509	28	4 ( 4)	50	483	1,298
	構築物	123	31	-	24	131	304
	機械及び装置	0	1,136	-	152	984	304
	車両運搬具	0	-	-	-	0	11
	工具、器具及び備品	1,540	272	2 ( 1)	436	1,375	3,918
	土地	2,067	0	1 [ 1]	-	2,066	-
	建設仮勘定	11	1,480	1,470	-	21	-
	計	4,252	2,951	1,478 [ 1] ( 6)	663	5,062	5,837

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械装置

再生可能エネルギー設備 1,136百万円

工具、器具及び備品

鶏肉加工工場主要設備 157百万円

肥育施設主要設備 78

2. 当期減少額のうち[ ]書は内書きで、減損損失の計上額であります。

3. 当期減少額のうち( )書は内書きで、取得価額から直接控除した圧縮記帳額であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
役員賞与引当金	11	-	11	-
役員退職慰労引当金	34	2	5	32

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	7月1日から6月30日まで
定時株主総会	9月中
基準日	6月30日
剰余金の配当の基準日	12月31日 6月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内町1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内町1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  無料
公告掲載方法	日本経済新聞
株主に対する特典	毎年6月30日現在の株主名簿に記載された500株以上保有の株主様に対し、当社製品の主力ブランドである「薩摩ハーブ悠然どり」を使用したチキン加工食品の株主優待を贈呈。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利並びに株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第56期）（自 2017年7月1日 至 2018年6月30日）2018年9月25日九州財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2018年9月25日九州財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

（第57期第1四半期）（自 2018年7月1日 至 2018年9月30日）2018年11月2日九州財務局長に提出。

（第57期第2四半期）（自 2018年10月1日 至 2018年12月31日）2019年2月1日九州財務局長に提出。

（第57期第3四半期）（自 2019年1月1日 至 2019年3月31日）2019年5月9日九州財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2018年9月28日九州財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年9月19日

株式会社アクシーズ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西元 浩文 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 濱村 正治 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アクシーズの2018年7月1日から2019年6月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アクシーズ及び連結子会社の2019年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社アクシーズの2019年6月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社アクシーズが2019年6月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年9月19日

株式会社アクシーズ

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 西元 浩文 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 濱村 正治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社アクシーズの2018年7月1日から2019年6月30日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社アクシーズの2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。